◆アメリカ・ミシガン州駐在員便り◆

2009/11/15　駐在員　宮村　佐衣子

【インターナショナル・ワイン＆フード・フェスティバル（IWFF)】

11 月 12 日から 14 日まで、近江八幡市の姉妹都市であるグランドラピッズ市で「インターナショナル・ワイン＆フード・フェスティバル」が開催されました。

これは、ミシガン州最大級規模の国際ワイン祭りと言われ、出展企業数 162、来場者数は約 1 万人、出品ワイン数は約 1000 種（昨年 750 種類）にのぼります。

そのうち、日本酒は、白鶴の大吟醸が「Dreyfus Ashby」のブースにて一点出展されていただけで、「インターナショナル（国際）ワイン祭り」とはいうものの、外国のワインは、イタリア、フランス産がほとんどで、アジアのアルコールはほぼ見られず、日本酒のシェアの低さが表れていました。

今回、国際姉妹都市委員会およびグランドラピッズ姉妹都市委員会から招待を受け出席するとともに、滋賀県の地酒を紹介してきました。

なお、姉妹都市委員会の会長は、彦根市にある JCMU の卒業生で、滋賀県との交流に熱心な方です。

会場中央の姉妹都市のブースにおいて、滋賀の地酒メーカー3 社、近江八幡の菓子、パンフレットの展示等を行いました。地酒メーカーの 1 社からは今年ロンドンで開催された IWC（インターナショナル・ワイン・チャレンジ）で金賞を受賞した大吟醸を出展していただきました。

イベント終了後これらの地酒は姉妹都市委員会が預かり、ミシガン州での取り扱いが可能な卸会社とコンタクトしていきます。

会場で、ミシガンで大手と言われる卸会社の方に、日本酒の輸入に関心があるか尋ねたところ、「アジアの料理が成長市場なので、酒を求める人も今後増えるだろう。ただ、元が高価な上にコストがかかるので、難しい。」という回答でした。海外での販路拡大は容易ではありませんが、一方で大きな可能性を秘めています。